

# ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2015年8月19日

## 月主題：たのしい

### 『札幌いちご会 小山内美智子さん』

いよいよ2学期。子ども達の元気な声が幼稚園に戻ってきます。長い休みの後、いつも感じるのは子どもたちの成長です。すらすらと足が伸びて、ちょっとだけ大人っぽくなっています。たった1か月で子ども達はこんなに大きくなるのだと、改めて驚いてしまいます。夏休み中、お子さんはお家で、お父さん、お母さん、ご兄弟とたくさん遊びましたか。新しい発見はありましたか。楽しかったエピソードをどうぞ幼稚園にお知らせください。

さて、夏休みの間、私たち職員もたくさん勉強をしてきました。特別支援、絵画、幼児の発達、積み木、園長も園の経営、キリスト教保育についてなど、毎日暑いけれど大変実のある夏休みでした。

その中で、聖ミカエル幼稚園が中心となり、聖公会の幼稚園や保育園の先生方が多数参加する「特別支援教育学習会『ぶどうの木』」があります。2、3か月に1回開かれている会ですが、今回は釧路で合宿を行いました。釧路頌栄保育園の事例をもとに全員で検討を行い、脳性麻痺で車いすの生活をしている小山内美智子さんにもわざわざ釧路に来ていただき、講演を行っていただきました。

小山内さんと私の出会いは、30年以上前。私が大学3年生の時。スエーデンの福祉を視察し、「障がい者も街に出て自分で生活をしよう。」と運動し、自身もアパートで自立生活を始めた小山内さんに「良子ちゃん、ボランティアに来てくれない？」と、スカウトされたのです。小山内さんの介護は、はじめは恐る恐るでしたが、小山内さんが言葉で一つ一つ丁寧に指示してくださいました。夜集まってきたいちご会の仲間とお酒を飲んだり、花札を小山内さんに教えてもらったこともあります。街に出かけたこともあります。車椅子の軍団が地下鉄の入り口で「誰か降りるの手伝ってください。」と声をかけ、目的地について地上に上がるときにも「誰か、上にあげてください。」と人を集めるのです。車椅子の皆さんはどの人も朗らかで、堂々としていました。

その運動が、地下鉄にエレベーターをつけ、市営住宅建築など、障がいを持っていても生活しやすい街づくりに繋がっていったのだと思います。市議会議員、黒柳徹子さん、谷川俊太郎さん、浅野史郎さんなどたくさんの著名人も小山内さんを支えています。

私が小山内さんから学んだことは「正しいと思ったことは、勇気をもってやってみる。」と言うことです。「環境が悪いから」「政治が悪いから」「誰もわかってくれないから」とぼやく前にやることはたくさんあるのです。

今私が、幼稚園の中で新しいことにチャレンジするのも、若いときに小山内さんに出会ったおかげかもしれません。

2学期も、とにかく基本は「子ども達のために」。子ども達のために一番良い選択を、私たち保育者で話し合っ、勇気をもって実行していきたいと思っています。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

### 「旅の思い出」

夏休みがあっという間に過ぎてしまいました。皆さんはご家族で楽しい思い出ができたでしょうか。

私は4日間だけ車で道南方面に旅に出ました。日本海に面する島牧村で、道の駅の隣りにユースホステルがあり、そこに1泊しました。むかし、ユースといえば独特の世界がありました。オーナーはペアレントと呼ばれ、食事の準備や片付けは自分です、寝具は決められた通りにたたむという規律がありました。夜は必ずミーティングがあり、初対面でも宿泊者同士が歌など歌いながら話し込むなど、度胸が必要でした。今はもうそれはなく、多くは普通の宿として経営されています。その日、たまたまキャンセルが出たので、宿泊客は私と妻の二人だけ、貸切状態でした。オーナーが自分で焼いた陶器で島牧の山海の幸をおいしくいただき、地元の自然や生活のお話を聞きました。とりわけ南西沖地震の際の、着の身着のまま宿泊客と山に逃げたこと、その後の復興の様子などは胸が痛みました。こういうお話をしながら、ゆったりと時間が流れていきました。

私が初めてひとり旅らしい旅をしたのは中学2年でした。青函連絡船で海峡を越え、東北を回って帰りました。帰り道、函館から乗った列車が全席指定の急行列車で、そうとは知らない私は指定券を持たず、5時間ほど列車の連結部分に座り、疲労が極限になりました。ついに憐れに思った乗客が私を自分の席に座らせ、弁当まで分けてくれるということがありました。こども心に、この恩は絶対に忘れないと思いました。

旅は人の厳しさにも触れ、情けにも出会います。優しくされるほど、いつかは自分が人を助けたいと考えるものです。とくに、偶然出会った人から優しくされるほど心が熱くなることはありません。そのような人との係わりを、この幼稚園で育ったこどもたちにも、ぜひ経験して欲しい、そう感じた夏休みでした。

チャプレン 下澤 昌